

上田図書館倶楽部だより



2010
11・12
月号

図書館振興財団助成事業として、
NPO 法人上田図書館倶楽部が発行しています。
ホームページアドレス
http://ueda.zuku.jp/

図書館の「と」と、倶楽部の「く」、それから
コミュニケーションの基本である「話す」を
かけて「とく」という名前をつけました。

図1 エコールのトップページ

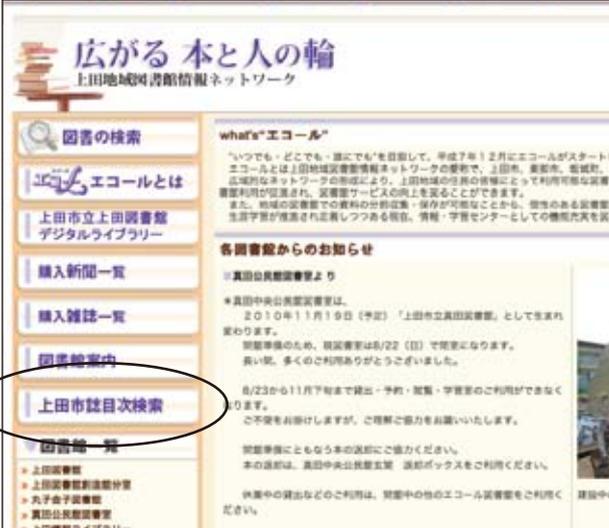


図2 注釈一覧

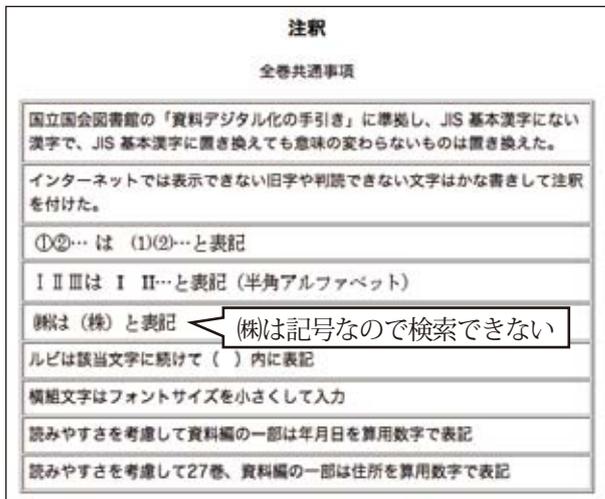


図3

使用されている用語は巻によって違う。

薬草 で検索 ↓ 1件	薬用植物 で検索 ↓ 3件
----------------------	------------------------

旧漢字はひらがなで表記。

揺 ↓ よう	課揺を免ず (原文) ↓ 課ようを免ず (目次データベース)
--------------	---

上田市誌、真田町誌、丸子町誌、武石村誌の 目次のデータベース化が終了、一般公開化

昨年九月から始まった上田市誌等の目次をインターネットで検索できるよう、データベース化する作業が約一年の歳月をかけてようやく終了し、一般公開にこぎつけました。検索は上田地域図書館ネットワーク「エコー」のトップページに「上田市誌目次検索」という項目が追加されています。(左図1参照)

知りたい情報を一括検索

地域の自然、民俗、歴史をまとめた市誌、町誌、村誌は住民にとってとても大切な記録とな

地域の資料を身近に

この目次検索で知りたい情報がどの巻にあるのか、家にながら分かるようになりました。皆さんもいろいろ検索して地域の資料を身近に感じてください。

気をつけたい検索方法

上田市誌といっても編集されている年代も編者も様々ですので使用されている用語もまちまちです。漢字や記号に関しては注釈に基づいて表記の統一を行っています。(図2)しかし、使用されている用語はそのままです。検索方法によって結果は違ってきます。(図3)ですから検索するときは類似する用語を辞書等で書き出しておいてから順に検索していくといいでしょう。

リーダーに聞く

このデータベース化の作業一筋縄ではいかなかったようです。リーダーの中村恵子さんに話を聞くと、当初エクセルでデータをつくる予定が途中からHTML(ホームページの記述形式)で書くことになり、非常に苦労してタグ(記述方法)を一から憶えたそうです。今回はHTMLを書く作業を四人、校正を四人、表示プログラムを一人で担当し、作業連絡はすべてインターネット上で管理したそうです。人数的には少なかったが、かえってそれが非常にまとまって効率よくできた要因だったとのこと。とはいえ、この作業量は大変なものです。本当にご苦労さまでした。

市民交流の場の提供事業

岩崎信子 朗読の夕べ 6

平成22年9月18日(土) 18:30～ ことばの繭ホール

バイオリンの音色とともに「随想 堀辰雄と堀多恵子」の朗読。アンケートにも「朗読の中で一つひとつの場面が鮮明に見えてくるような不思議な感覚。

ポーランドの少女の後姿が目の前に見えました。素敵な朗読でした。ヴァイオリンの選曲、ピッタリでした。」(女性 70才代)という感想をいただきました。



これからの予定

読み聞かせ人材養成講座事業

平成22年12月5日(日) 13:30～15:30 パレオ2階会議室

絵本読み聞かせレベルアップ講座

受講料500円 高校生以下無料 定員80名 定員になり次第メチ

三年三期の受講生を対象にしたレベルアップ講座を4回シリーズで行います。第一回の講師は稲垣勇一さん。近年成長著しい韓国絵本についてじっくりと、その力強さとは何かを探っていきます。一般の方も受講可。

市民交流の場の提供事業

平成22年11月20日(土) 18:30～ ことばの繭ホール

青木裕子 朗読の世界 10回記念

出演 朗読：青木裕子、スピネット：小澤章代

前売/一般1,000円 当日/一般1,200円 高校生以下無料(要申込)

平成22年12月18日(土) 18:30～ ことばの繭ホール

クリスマスコンサート ゴスペル&フルート

出演 ゴスペル：サーズディカラズ、フルート：山口直美

前売/一般1,000円 当日/一般1,200円 高校生以下無料(要申込)

チケットは、それぞれ一ヶ月前頃からブックカフェつづじ、事務局にて販売をいたします。電話での申し込みは上田情報ライブラリーでも受け付けています。(会員は2割引)

それぞれの詳しい情報はチラシや倶楽部HPなどをご覧ください。問い合わせは上田図書館倶楽部事務局(25-3115)まで。

サロントーク 地域文化の発掘と創造

参加費はコーヒーがついて

繭ホール・サロントーク お一人様500円です。

平成22年11月6日(土) 18時開場 18時30分開始 ことばの繭ホール

第8回 「就職氷河期/地方大学生の挑戦
～優良企業の内定を勝ち取れ!!」

ゲスト山崎一也さん(信州大学大学院工学系研究科)

信州大学大学院在学中の山崎一也さんを迎え、平凡な成績の学生が課外活動や資格取得を通じて、就職氷河期といわれるこの時期に、優良企業から内定を貰うまでの体験談を伺います。説明会はキャンセル待ち!? 漫画喫茶に宿泊!? 日本の就職活動生の今を大胆に告白!! 就職活動を控えた大学生、これから大学に進学する高校生・ご両親は必見です。

(要申込・高校生以下無料)

情報リテラシー教育・情報収集サポート事業

ネット&カフェ 11月22日(月)、12月27日(月)

13:30～15:45 セミナールーム&ブックカフェつづじ

サロントーク 地域文化の発掘と創造

繭ホール・サロントーク

平成22年9月24日(金) 18:00～20:00 ことばの繭ホール

第7回 「涙と笑いの感動人生」

ゲスト青木 淳さん(「かかあ天下が駆け抜けた」の著者)

昭和16年東京生まれの青木さんは、その後群馬・小諸を経て上田市に移り、高校卒業まで過ごされました。大学卒業後商社に勤務した後、貿易商社を設立、現在までグローバルに活躍されています。



青木さんは、お話しの中で人間最後の道楽は学問であるとして、「知的好奇心をもつことで、挑戦すれば頭がついてきて老いることはない」と今後に向かって意欲を示されました。

読み聞かせ人材養成講座事業

三年三期の講座がすべて終了しました

平成22年9月26日(日) 13:30～15:00 パレオ2階会議室



読み聞かせに必要な知識・技術を学んだ10回の講座が修了しました。学ばれた皆さんはこれからもそれぞれの立場で勉強を続けて行きたいと意欲をみせていらっしゃいました。(写真は受講生代表の方が感想を述べているところです)

「稲穂の会」絵本コーナーでの読み聞かせ



9月4日に第一期生のグループ「稲穂の会」による読み聞かせが情報ライブラリーの絵本コーナーで行われました。

図書館を使った調べる学習賞 コンクール受賞作品の展示会が ことばの繭ホールで開催される

図書館を使った調べもの学習を普及させるために、NPO法人「図書館の学校」などが主催し毎年行われている、図書館を使った「調べる」学習賞コンクールの受賞作品の展示会が去る九月二十五日(土)～三十日(木)まで情報ライブラリー「ことばの繭ホール」で開催されました。

今回展示された作品は第十三回の受賞作品二十六点。それぞれ自分のテーマに沿ってしっかりと調べ上げられた読み応えのある作品ばかりで、調べる学習の進め方などがひと目でわかり、見学に訪れた



人は大変参考になったようでした。

これを読んだ皆さんが、図書館の持つ力(蔵書・検索システム・レファレンスなどの調べる機能)を活用し実践的研究に取り組んでほしいと願っています。

一つの物事、テーマをじっくりと調べることで、生きる力・考える力が養われます。皆さんも自分なりのテーマを追究し、まとめてコンクールに応募してみたいかががでしょうか。第十四回の応募締め切りは平成二十二年十一月三十日(火曜日)です。詳しいことは「図書館の学校」のホームページをご覧ください。アドレスはこちら→
<http://www.toshokan.or.jp/>

定員を上回る六十名以上の方が受講された、文学講座「芥川龍之介の世界」全七回が終了しました。

アンケートには、「相馬先生のお話はとても聞きやすく、難しい内容も楽しくお聴きできた。」「先生のお元気な姿や文学への情熱に励まされ、勇気づけられた。」「などの他、「来年も是非、先生のお話をお聴きしたい。」「という感想・要望が多数寄せられました。

今回は六年間引き続いて相馬先生の講座に出席されている、図書館倶楽部会員の樋口禎子さんに今年度の感想を書いていただきました。

—※—

相馬先生の講座は今年で六回目になりました。過去五回の講座で、私たちは作品の行間で先生が語られる数々の逸話から、近代文学の作家たちを生き生きと描き出すことが出来ました。芥川龍之介は子どもの頃、誰でも一度は読んだことのある最もよく知られた作家で、まさに真

文学講座「芥川龍之介の世界」が終了

打ち登場ということになりましょうか。

三冊の岩波文庫から「羅生門」「鼻」「芋粥」「地獄変」「藪の中」「河童」が取り上げられました。「河童」を除いた作品は、「今昔物語集」「宇治拾遺物語」の一遍の原話から生まれたものですが、作り出された物語は全く別の物でした。先生の解説で読み解かれる美しい文章は驚くほど新鮮でした。苦しみの中で書かれた自伝的小説「河童」は読者をも迷いの世界に連れて行ってしまいます。

この講座を受け、芥川龍之介像が私の中で変わりました。細い葦が折れるように自死の道を選んだのではなく、懸命に書き、生きて、力尽きた人であったのだと。(樋口禎子さん)

没後百年荻原礫山を巡って

日時：平成二十二年十一月十三日(土) 一時半
会場：上田情報ライブラリー

セミナールーム
「白井吉見の『安曇野』を歩く」の執筆者、赤羽康男さんを迎え、百年前、三十歳という若さで天折した荻原礫山の慧星のような生涯を辿ります。問合せは倶楽部事務局まで。

記録・草創期の 上田図書館倶楽部

第六回 先導役としての
NPO法人図書館倶楽部

新知事の阿部さんが推進しようとしているタウンミーティング第一回目のテーマは「NPO等市民活動と行政との協働」である。

現在県下では図書館建設が目白押しで、市民参加も一段と活発になりそうだ。例えば、昨年開館した小布施町立図書館「まちとしよテラソ」、新小諸図書館設計ワークショップ、そして東御市の市民と一緒に創る新図書館学習会等、市民参加の形がアウフヘーベンしようとしている。実はこれらの潮流の先駆をなしているのがNPO法人上田図書館倶楽部である。既にNPOの図書館活動として七年の経験と実績を積んできた蓄積は大きい。後続の市民団体から到達目標とされている。

新たな段階を迎えた今、NPO法人上田図書館倶楽部の経過や継続、発展の要素等は分析、研究の価値がある。参画している様々な市民の思いを改めて確認し、七年間の事業、活動経過を振り返るとともに、コンセプトに照らし合わせて検証してみることだ。何が実現し、何が未達成なのか。市民協働による図書館活動の先導役として上田図書館倶楽部の役割を再確認したい。(彦)

